



《船着き場の朝》2000年 ©Mitsuhiko Imamori

IMAMORI Mitsuhiko
Satoyama,
where the water
smells

今森光彦
里山
水の匂いの
するところ

滋賀県立美術館

2023.7.8 土 Sat — 9.18 月祝 Mon

開場時間 | 9:30-17:00 (入場は16:30まで) 休館日 | 月曜日 (ただし祝日の場合には開館し、翌日火曜日休館)

会場 | 滋賀県立美術館 展示室3、ラボ 料金 | 一般1,200円 (1,000円)、高大生800円 (600円)、小中生600円 (450円)

*お支払いは現金のみ *() 内は20名以上の団体料金 *身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳をお持ちの方は無料

*同時開催中の常設展もご覧いただけます *年額2,400円 (一般) で何度でも観覧いただけるお得な年間パス (滋賀県立美術館メンバーズ) 入会受付中

主催 | 滋賀県立美術館 協力 | 有限会社オーレリアンガーデン、株式会社クレヴィス

協賛 | 株式会社ニコン、株式会社ニコンイメージングジャパン 後援 | エフエム京都 企画 | 芦高郁子 (滋賀県立美術館 学芸員)

今森光彦 里山 水の匂いのするところ

IMAMORI
Mitsuhiko
Satoyama,
where the water
smells



- 1《比叡山の裾野に広がる田植えの頃の棚田》1995年
- 2《おしよらいさん》1998年
- 3《オナガガモの群れ》2002年
- 4《ヤマウルシの紅葉とオオカマキリの影》1985年

1954年、滋賀県大津市に生まれ、第20回木村伊兵衛写真賞、第28回土門拳賞、地域文化功労者文部科学大臣表彰をはじめ、数々の賞を受賞している写真家・今森光彦の写真展を開催します。

今森は、学生の頃から世界各国を訪問し、熱帯雨林から砂漠まで、その自然に生きる生物とそれらを取り巻く環境を撮影してきました。1992年、写真雑誌『マザー・ネイチャーズ』夏号に「里山物語」を発表。以後、滋賀・伊木地区の琵琶湖を望む田園風景の中にアトリエを構え、自然と人の関わりを里山という概念を通して撮影し続けています。

本展では、今森が長年撮り続けてきた滋賀の里山を通して、水の循環に着目しました。撮影の中で出会った水の匂いに、自身の原風景を思い出したと言う今森は、里山における水の循環を、生命の循環とともに写しとっています。水は奥山から人々の住処を流れ、琵琶湖へと戻り、大気を通して再び大地へと還ってゆきます。里山に宿る多様な生態系と、その土壌となっている豊かな環境は、私たちの忘れてしまった原風景を、水の匂いととも思い出させてくれるかもしれません。

関連イベント / Events

今森光彦 スペシャルギャラリーツアー

※事前申込制 / 抽選

作家・今森光彦氏本人によるギャラリーツアーをおこないます。

日時 | 7月16日(日)、9月17日(日)
14:00-(約90分)

アートにどぼん! たいけんびじゅつかん拡大版 切り絵ワークショップ 里山を作ろう!

※事前申込制 / 抽選

切り絵作家としても活躍する今森光彦氏をむかえ、子どもとその保護者を対象にワークショップとギャラリーツアーをおこないます。

日時 | 8月15日(火)
午前(10:00-12:00)・午後(13:30-15:30)

対象 | 子ども(幼児~中学生)とその保護者

びわこ文化公園3館連携共同事業

講演会「ヒトと自然のかかわりから見た近江」

※事前申込不要 / 当日先着

講師に滋賀県文化財保護協会の堀真人氏をおむかえします。

日時 | 9月2日(土) 14:00-(約90分)
場所 | 滋賀県立美術館 木のホール

*最新情報や詳細は当館HPでご確認ください。

*要事前申込はネットからのお申込が必要です。

*申込開始はいずれも6月15日(木)です。

次回展覧会予告 “みかた”の多い美術館展 2023年10月7日(土) - 11月19日(日)

